

歯科治療に関するアレルギー

青年期・壮年期
シリーズ

Vol. 10

最近、口の中の粘膜や皮膚でみられる治りにくい病気の原因として、歯科治療で使われる金属や薬剤、口の中にできる化膿病巣^{かのうびょうそう}(※1)等に対する生体のアレルギー反応が注目されています。

口の中にアレルギーの原因となるものがあると、足の裏や手のひらに水ぶくれができたり(掌蹠膿胞症^{しょうせきのうほうしょう})、時には全身に湿疹ができたりすることもあります。

※1:深いむし歯や重度の歯周病などが原因で炎症を起こして膿がたまつた状態のこと

歯科治療に関するアレルギーは主に以下の4つが考えられます。

1. 金属アレルギー
2. 麻酔アレルギー
3. ラテックスアレルギー
4. 薬物アレルギー

1. 金属アレルギー



金属アレルギーは、むし歯治療のための詰め物や被せ物に用いられる金属が原因でアレルギーを引き起こすものです。

金属の周りの歯肉がただれできたり、手や足にまで症状が出る方もいるので注意が必要です。

3. ラテックスアレルギー



ラテックスとは主に天然ゴムに含まれるタンパク質です。ラテックスアレルギーがあると天然ゴムの手袋で口に触れるなどによりアナフィラキシーショックを引き起こす可能性があります。ラテックスアレルギーがある方の30~50%にキウイやアボカドなどのアレルギーがあると言われているので、フルーツでアレルギー反応を起こした経験がある方は必ず歯科医師へお伝え下さい。

2. 麻酔アレルギー



歯科でよく用いられる局所麻酔薬に対するアレルギーで、アナフィラキシーショックを引き起こす可能性があります。麻酔をした後、全身にかゆみや蕁麻疹^{じんましん}、腫れ、喘息や呼吸困難などが起ります。しかし、アレルギー反応を起こす人は約0.00007%と極めて低頻度です。

4. 薬物アレルギー



お薬で起こるアレルギーです。皮膚の発疹や目のかゆみなどが主な症状ですが、アナフィラキシーショックを引き起こす可能性もあります。抗生物質は薬物アレルギーが起こる可能性が高いと言われていますので、抗生物質でアレルギーを起こした経験がある方は必ず歯科医師へお伝え下さい。

歯科における対処法

アレルギー反応が出た場合、何が原因か検査^(※2)し、症状の原因が口の中の金属と考えられる場合は、該当する金属を除去し、新しい金属や別の材料に交換することがあります。またむし歯、歯周病、親知らずなどの炎症が原因の場合はその治療をすること

で症状が改善されます。

またアレルギーの原因薬剤や材料が判明した場合は、それらの使用を避けて歯科治療を行います。

※2:薬や金属に対するアレルギー反応を調べるパッチテスト(皮膚科で実施)などがあります。

